

「行政トピックス」東京都が東京Xのブランド力維持向上対策明示  
 東京都は第2回定例都議会を開催中だが、17日の本会議一般質問で清水孝治議員（自民党）が「知名度の高いトウキョウXのブランド力を維持向上させていくためには質、量両面からの改善が必要不可欠だ」と強調し、「都はこれまで、生産性の向上や高い品質の維持に取り組むとともに、今年度からは青梅畜産センターの再編整備を開始している。加えて、これから必要なことは、2020年のオリンピック・パラリンピック開催に向け、増加する国内外からの観光客にこのトウキョウXを提供し、おいしく召し上がっていただくこととであり、そうすれば大変大きなPR効果となり、イベリコ豚にもまさるとも劣らないほど、そのブランド力が一層高まると考えている。こうした観点からトウキョウXの一層のブランド力向上策に全力で取り組むべきだと考えるが」と、都の所見を質した。

これに対し都産業労働局の山本隆局長は「東京を代表する畜産物の一つであるトウキョウXのブランド力を一層高めるためには、生産量の拡大に加え、品質の維持向上と積極的なPRが必要だ」と述べ、その対策として①都は本年度、青梅畜産センターの再編整備に着手し、生産者に配布する種豚の生産体制の強化に取り組む②専用の飼料の改善や成育状態に合わせたキメ細かな飼養技術の指導など、品質の維持向上を図る③消費者への生産情報の提供を一層迅速化するなど、生産者団体の取り組みも支援する―ことを明らかにした。

さらにこうした取り組みに加え、「東北地方など都外生産者の新規開拓を進めるとともに、都内飲食店での利用拡大や東京味わいフェスタなどでの国内外に向けた情報発信を強化するなど、ブランド力の一層の向上に努める」とことを明らかにした。

先の東京Xアソシエーション総会で、年間出荷頭数2万頭の目標が示されているが、現状は8千頭程度と品薄状態が続いており、いかに増頭するかが大きな課題となっているだけに、今回の山本局長の答弁は東京X生産・流通関係者にとって非常に力強い発言となった。

#### オリーブ牛セミナー、ニューヨークで開催、展示会にも出展

讃岐牛・オリーブ牛振興会（森山英樹会長）は、ジェトロ香川県と連携し香川県の銘柄和牛であるオリーブ牛のアメリカにおける販路拡大のためのセミナーを、27日、ニューヨークで食肉業者や飲食店を対象に開催する。また、合わせてブランド認知度向上のため、同じくニューヨークで開催される「Summer Fancy Food Show 2015」に出展する。

セミナーはブルックリンキッチンで開催され、アメリカの食肉卸業者、ホテル・レストラン関係者を招いて行われる。展示会は28日から30日の期間、マンハッタンのJacob K. Javits Convention Centerで開催される。